

Catch Ball

CONTENTS

- 平成29年産農産物を振り返って … 1～7
- 主な行事 … 8～9
- こよみ・ICT事業について
 - ・農業者年金基金からのお知らせ … 10
- JAグループ通信・理事会だより … 11
- フォトだより 他 … 12

●スプラピラの一言●

2月3～4日に開催される《美唄雪んこまつり》で、JAびばい青年部と若手職員団体スプラの會が作った『かまくら』が展示されます！また4日午前11時から女性部手作りの豚汁が200食限定で無料配布されるので、ぜひみなさん足を運んで下さいね！



平成 29 年産農作物を振り返る

JAびばい管内の基幹作物である水稻をはじめ、小麦、大豆
その他園芸作物の生育状況等を振り返ります。
今年度の作付の参考にお役立てください。



水稻

(1) 融雪と耕起作業

平成29年は3月の降雪量が少なく、高温多照で経過し融雪が進み、融雪期は平年より9日早い3月31日になった。(空知農業改良普及センター調べ)

4月の日照時間が多かったため、

耕起最盛期は2日早い5月4日になったが、下旬の降雨により乾田化はあまり進まなかった。

(2) は種作業

は種始4月16日(+2)、は種期4月21日(+2)、は種終4月26日(+1)と平年より1〜2日早く行われた。

(3) 育苗

は種後の日照時間が多く、出芽期は平年より2日早い4月27日となり、出芽は良好だった。また、育苗期間中も高温に経過し、草丈、葉数、乾物量が平年より上回り、充実度は平年並となった。育苗期間中に目立った病害は見られなかった。

(4) 移植作業

移植始5月19日(+2)、移植期5月22日(+3)、移植終5月27日(+3)と平年より2〜3日早く作業が進んだ。活着期は5月27日(+3)で、移植期間からの好天で全体的に良好だった。

(5) 初期生育

6月は中旬までの低温と上・下旬の日照不足で初期の分げつ確保が劣り、7月1日調査の茎数は、平年の87%程度となった。

(6) 分げつ盛期・冷害危険期

7月に入り高温に転じ、茎数の増加は見られたが、遅発分げつの発生が目立ち、8月1日調査の茎数は平年比97%になった。幼穂形成期は7月5日と平年より3日遅れた。

冷害危険期間中は、低温(15℃以

下)の日がなく、不稔稲の発生は平年より少なくなった。

表2「ななつぼし」中・成苗平均の生育推移 (普及センター定点)

調査月日	項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m ²)	遅速 日数
6月1日	29年	19.6	5.0	104	早3
	平年	16.5	4.6	99	
6月15日	29年	27.6	6.6	190	±0
	平年	28.0	6.6	193	
7月1日	29年	39.3	8.5	446	遅2
	平年	42.7	8.7	510	
7月15日	29年	64.6	10.3	673	遅1
	平年	63.6	10.2	690	
8月1日	29年	94.5	10.9	613	遅1
	平年	85.9	10.6	630	

(7) 出穂期間

出穂期間中は日照が多くなったが、遅発分げつによる遅れ穂で穂揃性がやや悪くなった。また、成苗ポット育苗方式では、早期異常出穂の見られたほ場が散見した。

その結果、出穂状況は出穂始7月26日(±)、出穂期7月30日(-1)、出穂揃8月3日(-2)で、遅発分げつの影響により、出穂期間は平年より3日程度長くなった。

(8) 登熟期間・成熟期・収穫作業

登熟期間は低温で経過し、遅れ穂も要因となり、成熟期は9月18日と平年より7日遅れた。

収穫作業は成熟期の遅れと降雨日

が近く、収穫始は9月20日と5日遅れて始まり、収穫終は10月3日で3日遅れた。

表3「ななつぼし」中・成苗平均の生育期節 (普及センター定点)

項目	出芽期	活着期	分げつ始	幼穂形成期
29年	4/27	5/27	6/9	7/5
平年	4/29	5/30	6/9	7/2
遅速	早2	早3	±0	遅3
項目	出穂始	出穂期	出穂揃	成熟期
29年	7/26	7/30	8/3	9/18
平年	7/26	7/29	8/1	9/11
遅速	±0	遅1	遅2	遅7

(9) 収量構成要素・収量

m²当たり穂数は少ない傾向にあったが、1穂粒数が平年並からやや多くなり、m²粒数は「ななつぼし」で平年並からやや多くなった。総実歩合は平年並から高くなった。

北海道農政事務所による南空知の予想収量(10月15日現在)は、10a当たり544kg、作況指数105と発表されている。

品質は、青未熟粒が目立ったが、製品歩留は高く、タンパク含有率も低い傾向となっている。

その要因は、不稔が少なかったこ



平成 29 年産農作物を振り返る

と、幼穂形成期以降の好天による粗穀が大きかったこと、登熟期間の気温が低めに経過したことで、粒張りが良好であったことなどが考えられる。

品種名		ななつぼし		ゆめぴりか	
育苗様式		中苗	成苗	中苗	成苗
㎡穂数 (本/㎡)	29年	600	591	628	600
	平年比	92%	105%	89%	92%
1穂粒数 (粒/㎡)	29年	58.1	60.9	49.1	52.6
	平年比	105%	114%	100%	100%
㎡粒数 (粒/㎡)	29年	34,860	35,992	30,835	31,560
	平年比	97%	107%	89%	93%
稔実歩合 (%)	29年	96.3	94.9	94.4	94.8
	平年比	105%	101%	102%	102%

(10) 病害虫の発生状況

① いもち病

7月上中旬に葉いもち病感染に好適な高夜温、曇天湿潤が続き、7月下旬に葉いもち病の初発を確認した。その後も、感染好適条件が出現し、一部のほ場で葉・穂いもち病の発生が見られた。

② カメムシ

7月の高温により一部の地域で捕虫数が増加したが、適期防除の実施により斑点米による被害は見られなかった。

③ 紋枯病

7月の高温により一部のほ場で発生が見られ、上位葉まで病斑が進展しているほ場も散見された。今後の発生動向に注意が必要。

『平成30年に向けて』

(1) 初期生育促進と穂揃性向上対策

ほ場の溝切りや暗渠管清掃によるほ場の乾燥化、育苗期間の適正なかん水・温度の管理、特に成苗ポット苗では育苗後半の高温回避による早期異常出穂の防止、適期移植の厳守、側条施肥の導入と割合の適正化など、過去2力年の課題である初期生育の確保に向けて、育苗や本田の初期生育管理技術を改善し穂揃性の向上に努める。

(2) 冷害危険期の深水管理の徹底

近年、7・8月の気温が低温とはならず、幼穂形成期からの深水管理が見逃されやすくなっている。いつ低温に当たっても幼穂が守られるように深水管理のできるほ場づくりに努める。

(3) 病害虫防除の徹底

近年の気象は温暖化により高温傾向であることから、病害虫が多発しやすくなっている。カメムシを始め、いもち病や紋枯病などに対しての予防と防除対策を徹底する。

(4) 雑草対策

近年、ヒエやミズアオイなどの残草の多いほ場が見られている。本田での発生雑草に効果のある薬剤の選択や薬剤の適正な時期の散布に努め、稲の生育に影響を及ぼさないようにする。

秋まき小麦「きたほなみ」

『生育経過』

平成29年産秋まき小麦のは種作業は平年並の9月9日に開始された。

その後降雨もあつたが、は種作業は比較的順調に進み、は種期は9月17日、は種終は9月25日、ともに平年より2日早まった。

茎数確保に向けた適期は種が浸透し、前年同様9月20日までに7割、25日までに9割のほ場では種作業が終了した。



表1 作業・生育期節と生育状況 (きたほなみ越冬前)

	平成29年	平年	遅速(差)
は種始	9月9日	9月9日	±0日
は種期	9月17日	9月19日	+2日
は種終	9月25日	9月27日	+2日
出芽期	9月25日	9月27日	+2日
根雪始	11月21日	11月29日	-8日
越冬前葉数	5.5葉	6.1葉	-0.6葉
越冬前茎数(本/m)	949	1,191本	-242本

適期は種により、10月中旬までは平年を上回る生育量だったが、下旬以降の低温と断続的な降雨により生育が停滞し、越冬前の葉数は平年より0.6枚少ない5.5葉、m当たり茎数は平年より242本少ない949本に止まった。

根雪始は平年より8日、前年より26日早い11月21日に迎え、断続的な降雨のため雪腐病の防除が難しい年となり、雪腐病の被害と茎数不足が心配された。

融雪期は平年より9日、前年より3日早い3月31日で、積雪期間は130日と平年より1日短くなった



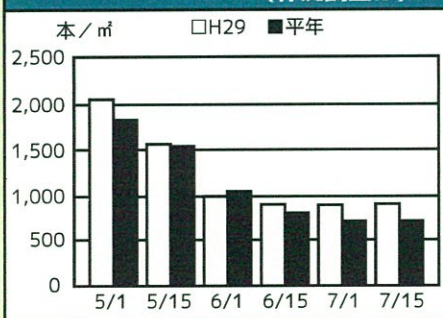
平成 29 年産農作物を振り返る

表 2 生育期節と遅速 (きたほなみ越冬後)

	平成 29 年	平 年	遅速 (差)
融雪期 (H29)	3 月 31 日	4 月 6 日	+ 6 日
起生期	4 月 7 日	4 月 11 日	+ 4 日
幼穂形成期	5 月 2 日	5 月 7 日	+ 5 日
止葉期	5 月 25 日	5 月 30 日	+ 5 日
出穂期	6 月 4 日	6 月 7 日	+ 3 日
成熟期	7 月 18 日	7 月 18 日	± 0 日
収穫始	7 月 21 日	7 月 21 日	± 0 日
収穫期	7 月 25 日	7 月 24 日	- 1 日
収穫終	7 月 27 日	7 月 28 日	+ 1 日

が、褐色雪腐病と褐色小粒菌核病による被害を受けるほ場もあった。融雪期が早いことから、起生期は平年より 4 日早く迎えた。起生期以降 5 月末までは概ね好天に恵まれ、幼穂形成期は 5 日、止葉期も 5 日、出穂期は 3 日、平年より早くなった。6 月 1 日には 20 mm 程度のまとまった降雨があり、その後断続的な降雨と低温の中での出穂となった。前年のような稔実障害は発生しなかったが、開花期は 6 月 11 日とほぼ平年並まで停滞した。6 月中旬以降の気象はほぼ平年並みに経過したが、7 月上旬は降雨日は多いものの平均気温は 3.7℃/日高く、日照時間は 2.0 時間/日長くなった。

図 2 秋まき小麦茎 (穂) 数の推移 (作況調査ほ)



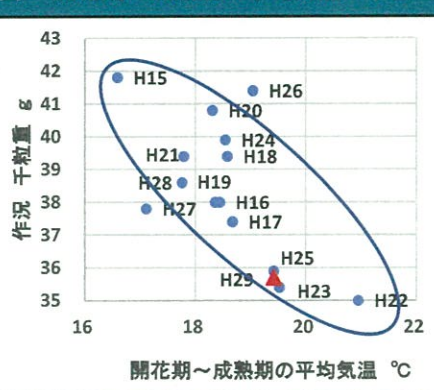
徒長傾向で穂数が多く、稔実障害

融雪期が早まったため、起生期以降の茎数は急激に増加し、5 月 1 日現在 (幼穂形成期) の茎数は、前年同様に平年を 253 本上回る 2,047 本/m²となった。幼穂形成期以降の茎数もほぼ平年を上回って推移した。成熟期の稈長は 82 cm と長く、穂数は平年を 148 本上回る 910 本/m²、穂長は平年並みの 9 cm だった。

表 3 生雪腐病の発生状況 (空知農業改良普及センター本所)

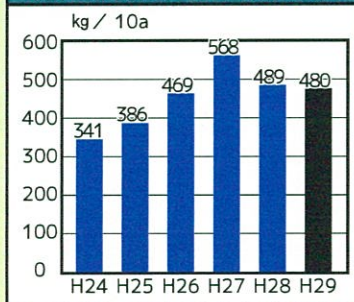
	発生面積 (ha)	割合 (%)
大粒	0	0
褐色小粒	1,221	35
黒色小粒	42	1
紅色	125	4
褐色	2,104	60
計	3,491	

図 3 開花期～成熟期の平均気温と千粒重



を受けていないことから倒伏の発生が心配されたが、被害は軽微でだった。子実粒の充実が期待されたが、過繁茂傾向にもあったこと、登熟期間の気温が高めに推移したことからの粒の肥大が進まず、細い仕上がりとになり製品歩留まりが低下した。収量は豊作となった H27 年には及ばなかったが、近年の平年並みが確保された。

図 4 収量の推移 (農政事務所) H29 は推定値



- 『平成 30 年産に向けて』
- 9 月中旬は 6 日間の降雨日があり降水量は 150 mm を越えた。平成 30 年産小麦の種作業は平年から 4 日遅れ、適期を逃したほ場も見られた。は種が遅れたため、10 月 15 日現在の葉数は平年より 1 枚少ない 2.4 葉、m あたり茎数は平年より 51 本少ない 273 本に止まった。図 4 収量の推移 (農政事務所) H29 は推定値 冬損害をできるだけ少なくするため、早めに融雪促進の準備をする。
- は種が遅いと気温が低下するため、出芽までの期間を長く要する。断続的な降雨では場の湿度が高まっており、「なまぐさ黒穂病」の発生が懸念される。「なまぐさ黒穂病」は、空知を含む道内 5 つの振興局で確認されている。平成 29 年産の発生面積は前年を下回っているが、平成 30 年産は感染リスクの高い状況にあるので、出穂期頃からのほ場観察を徹底して行い発生拡大を防ぐ。
- 発生を抑えるための対策は次のとおり。
- ① 輪作の実施 (最重要)
 - ② 健全種子の使用 (自家採種を使わない)
 - ③ 種子消毒の実施
 - ④ 適期は種 (遅まきをしない)

獅子座



あれこれ迷いが生じやすい月。信頼できる人に話を聞いてもらい、一人で悩まないで。芸術鑑賞で気晴らしを

蟹座



物事を邪推しやすく、素直になれない気配。ゆっくり息を吐き、気持ちを静めましょう。いい香りをかぐのも◎

2018. 2

平成 29 年産農作物を振り返る

⑤適正な種深度(深まきをしない)
発病リスクが高い場合は、対策を講じたうえで、翌年の見回りを徹底するなど、見逃しのいように心がけること。

☆秋まき小麦の減収要因は、連作障害だけでなく排水不良や低pH土壌が考えられる。額縁明渠や補助暗渠の施工、土壌診断に基づく石灰資材の投入を検討すること。

春まき小麦「初冬まき栽培」

『生育経過』

平成29年産春まき小麦のは種作業は、ほぼ平年並みの11月14日に終了した。

断続的な降雨のため、は種適期を逃したり、は種をあきらめる場面も見られた。

降雪始は平年より11日早い10月20日で、根雪始は11月21日と平年より8日早くなった。

融雪期は3月31日と平年より9日早く、出芽期は4月4日で平年より9日早く、5月末までは概ね好天に経過したため、幼穂形成期から止葉期までは平年より5日程早く生育した。

6月の気温はやや低く、降雨日が多かったため日照時間が平年を下回り

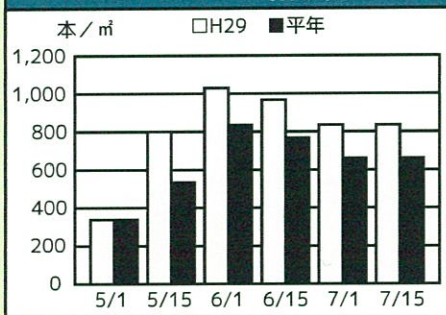
表4 生育期節と遅速(初冬まき)

	平成29年	平年	遅速(差)
は種終	11月14日	11月15日	+1日
幼穂形成期	5月12日	5月18日	+6日
止葉期	5月29日	6月3日	+5日
出穂期	6月8日	6月11日	+3日
成熟期	7月26日	7月27日	+1日
収穫始	7月30日	8月2日	+3日
収穫期	8月4日	8月4日	±0日
収穫終	8月7日	8月7日	±0日

生育は停滞傾向で、出穂期は3日早いものの成熟期は平年並みに迎えた。

5月1日現在の㎡あたり茎数は、ほぼ平年並みの335本だったが、5月上旬の気温が高く経過したため5月15日現在には平年よりも279本多い797本となり、その後も茎数と穂数は過剰傾向で穂数が多いほ場を中心に倒伏の被害も見られた。

図5 春まき小麦茎(穂)数の推移(作況調査)



出穂期と成熟期前後には断続的な降雨があり、赤かび病・穂発芽の発生が助長され、品質低下の要因となり、収量も低下した。

収穫作業は平年より3日早い7月30日に始まり、8月7日に終了した。

『平成30年産に向けて』

積雪期間が長いと越冬率が低下するため、融雪剤散布による融雪促進に努める。

散布時期…散布適期は最高気温が0℃以上の続く日(3月1日～3月10日頃)

散布資材…アッシュ類、融雪成力ル等40～60kg/10a

※散布後15cm以上の新雪が積もった場合は再度散布する。

※ばらまき栽培では凍上害を回避するため、極端に早い融雪剤散布を避ける。

融雪後、ほ場に入れるようになったら直ちに窒素肥料を施用する。

排水性の悪いほ場では、額縁明渠の設置を検討する。

大豆「ユキホマレ・スズマル」

『生育経過』

大豆のは種作業は、平年より2日早く、出芽期は好天の影響で4日早まった。

表5 作業・生育期節と遅速(ユキホマレ)

	平成29年	平年	遅速(差)
は種期	5月28日	5月30日	+2日
出芽期	6月8日	6月12日	+4日
開花期	7月18日	7月19日	+1日
成熟期	9月23日	9月23日	±0日
収穫始	10月5日	10月4日	-1日
収穫期	10月14日	10月14日	±0日
収穫終	10月22日	10月24日	+2日

表6 作業・生育期節と遅速(スズマル)

	平成29年	平年	遅速(差)
は種期	5月29日	5月26日	-3日
出芽期	6月7日	6月5日	-2日
開花期	7月25日	7月23日	-2日
成熟期	10月3日	9月28日	-5日
収穫始	10月10日	10月10日	±0日
収穫期	10月16日	10月17日	+1日
収穫終	10月22日	10月23日	+2日

6月の気温は4月中旬以外は平年並みからやや低く、日照時間も平年を下回り、出芽以降の生育はやや停滞した。

7月2・3半旬が高温多照になったことから生育が回復し、開花期は平年より1日早くなった。



平成 29 年産農作物を振り返る

8～9月は平年並からやや低く経過したため、ユキホマレの成熟期は平年並になった。

10月は断続的な降雨があったが、収穫期は平年並で、収穫終は2日早まった。

マメシンクイガの発生時期は平年並みだったが、ほ場によっては食害を受け、品質を低下させた。

『平成30年度に向けて』

☆本年は、9月3・4半旬の多雨に象徴されるように、降雨に悩まされる年だった。「あの晴れた時期に溝を掘っておけば…」と悔やんでいる方も多いと思う。

管内の大半は転作田であり、冠水には至らなかったが、浸水して長時間滞水するほ場が多く見られた。

すぐに見える被害はなかったが、湿害により根が傷み、早期に落葉したほ場では、粒の肥大が抑制された。

☆滞水した場合は直ちに排水を掘り、停滞水を排除できる準備が必要(写真1,2)。

暗渠の点検だけでなく、あらかじめ、額縁明渠や無材暗渠などの補助暗渠を整備しておくことも大切。

作物が生育している場合でも、水稻用の明渠掘機を活用することも検討する。

表1 本年の生育概要 (空知農業改良普及センター)

	草丈 (cm)		葉数 (枚)		葉鞘径 (mm)		球径 (cm)		遅速 日数
	29 年	平年	29 年	平年	29 年	平年	29 年	平年	
5月15日	13.4	13.3	2.0	2.4	3.3	3.5			-1日
6月1日	24.7	19.1	4.2	3.4	6.8	5.7			+3日
6月15日	46.7	38.0	6.4	5.9	11.6	10.0			+4日
7月1日	71.1	68.8	8.2	8.3	17.6	16.7			+3日
7月15日	86.4	77.2	8.1	9.2	19.8	19.1	4.6	4.6	±0日
8月1日	66.0	70.7	6.5	7.8	16.8	17.0	6.5	6.7	±0日
8月15日							7.0	7.3	±0日
9月1日							7.4	7.4	±0日

たまねぎ へきたもみじ2000

『本年の生育経過と農作業状況』(空知農業改良普及センター作況定点)

春先の気温・日照が比較的高かったことで融雪が進み、移植作業は平年より早く開始したが、移植終は平年並となった。活着は良好だった。



表2 農作業期と平年比較 (空知農業改良普及センター)

	29 年	平年	遅速日数
は種始	2月13日	2月19日	+6日
は種期	2月23日	2月25日	+2日
は種終	2月27日	3月4日	+5日
移植始	4月15日	4月24日	+9日
移植期	4月21日	4月30日	+9日
移植終	5月5日	5月6日	+1日
根切り期	8月25日	8月19日	-6日
収穫始	8月20日	8月18日	-2日
収穫期	9月4日	9月5日	-1日
収穫終	9月9日	9月18日	-9日

表3 生育期節と平年比較 (空知農業改良普及センター)

	29 年	平年	遅速日数
出芽期	3月7日	3月12日	+5日
球肥大始	7月4日	7月5日	+1日
球肥大期	7月9日	7月11日	+2日
倒伏始	7月16日	7月25日	+9日
倒伏期	7月20日	7月27日	+7日
枯葉期	8月21日	8月19日	-2日

球肥大は平年より1日早く始まった。その後、7月上旬の高温の影響により、肥大がやや緩慢となり、球径はほぼ平年並みとなった。
北もみじ2000の倒伏期は7月20日と平年より7日程度早くなった。
降雨・曇天の影響もあり、倒伏後の枯葉は平年より2日遅れた。

生育初期から球肥大期にかけては、草丈・葉鞘径が平年を上回って経過した。

収穫盛期は平年並で、収穫終は雨が多かったため平年より9日遅れたが、し大ししの比率が平年よりも高く、収量は平年を上回った。

(kg / 10a)

	29 年	平年	平均差
2 L	373	483	-110
L 大	2,377	1,488	889
L	2,203	1,965	238
M	689	770	-81
S	27	133	-106
規格内計	5,669	4,838	831
規格外	365	281	84
規格内率	93.5%	93.6%	-0.1%
合計	6,034	5,119	915

『病害虫』

◎ネギハモグリバエ(図1、2 空知農業改良普及センター予察ほ場)

予察調査ほ場においてネギハモグリバエ成虫が捕殺され始めたのは、5月4半旬～6月1半旬だった。その後低密度で推移し、7月3半旬にわずかに捕殺頭数が増加したが、食害痕もわずかに確認される程度だった。再び8月2半旬に捕殺頭数が増加したが、被害はほぼ確認されなかった。特に、岩見沢市の1ほ場は捕殺頭数が多く、8月3半旬には最大で粘着板1枚当たり308頭捕殺された。美幌市2ほ場は期間を通して捕殺頭数が少なく、最大でも8頭以下で推移した。本年は昨年に引き続き

射手座



興味を持っているジャンルについて情報収集を。耳寄りな話題をキャッチできる可能性大。人脈拡大にもベスト

蠍座



ささいなことでイライラするかも。一人の時間をもち、心を安定させて。手作りの趣味を満喫するのもお勧め

2018. 2

平成 29 年産農作物を振り返る

きネギハモグリバエの発生が少なかったことから、りん茎内部への幼虫の食入や腐敗も少ない年だった。

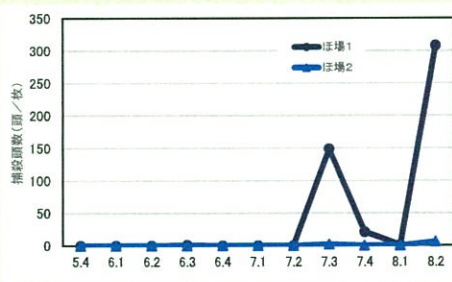


図1 たまねぎほ場におけるネギハモグリバエ捕殺頭数の推移 (岩見沢市)

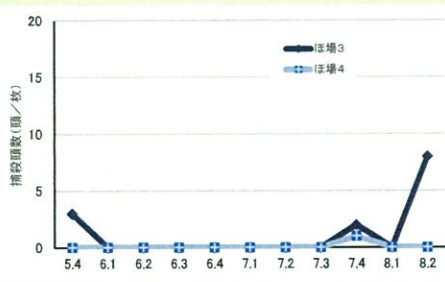


図2 たまねぎほ場におけるネギハモグリバエ捕殺頭数の推移 (美幌市)

◎アザミウマ類 (図3 空知農業改良普及センター予察ほ場)

アザミウマ類は昨年に引き続き発生が多く、6月下旬から徐々に増加、7月中旬以降から食害も散見され、発生頭数は常に多い状態が続いた。

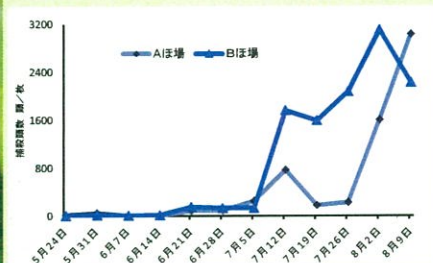


図3 たまねぎほ場におけるアザミウマ類捕殺頭数の推移 (美幌市)



写真1 アザミウマ類の成虫と幼虫

『平成30年産に向けて』

ほ場の融雪を促進し、適期移植に入れるようにする。ほ場の透水性が不十分な場合は心土破砕を実施し、移植後の根張りを確保する。

生育期間中には病害虫の発生予察に努め、適期防除を実施する。特に、アザミウマ類の多発生が続いているため、剤による防除効果を確認し、散布量は十分確保する。

収穫後には緑肥や堆肥による有機物の補給を行い、地力を維持する。

アスパラガス

『作型ごとの生育経過』

(1) ハウス作型

平年通り2月中旬から除雪やハウ

スビニールの被覆が始まった。春芽の収穫は平成28年並みに開始となり、収量は萌芽数が少ない傾向であったが、若茎の太さは太かったため、前年並みであった。立茎は目標とする太さの親茎と本数を確保することはできたが、6月の低温と日照不足により親茎の樹勢が弱かったため、夏芽の萌芽は平年より10日遅かった。

ハウス、露地作型ともに翌春に必要な生育量を確保しており、露地慣行栽培での生育は平年よりも草丈は長く、萌芽数が多いため、生育量は大きかった。

根中糖度も平年並みに高く、株養成は十分行われたと思われる。

(2) 露地作型

6月の天候不順により、春芽の収量は平成28年並みより下回った。

立茎栽培では、目標とする太さの親茎と本数を確保し、7月は高温であったため、親茎の生育が早く、夏芽の萌芽も早まった。夏芽は8月中旬までの高温により、病害虫の発生や若茎の開きによる製品率の低下が見られ、ハウス作型同様8月中旬以降の低温により平年よりも10日早く収穫が終了したため、収量は少なかった。

(3) 秋季生育調査結果

生育調査は9月下旬、根中糖度調査は11月に行った。

表1 H29 生育と過去2年間との比較 (JA びばい管内調査ほ場の平均)

作 型		草丈 (cm)	有効茎数		GI	斑点病 発病指数	根中糖度	
			茎数(本/m)	茎径(cm)				
ハウス		H29	192.8	13	1.32	3,351	2.3	21.7
		H28	180.6	13	1.25	2,913	2.7	20.0
		H27	198.4	13	1.23	3,203	2.9	21.7
露 地	立茎	H29	163.4	14	1.24	2,904	2.4	23.8
		H28	181.9	14	1.12	2,891	2.0	21.9
		H27	158.7	15	1.18	2,842	2.4	20.3
	慣行	H29	188.8	31	1.05	6,016	2.0	25.1
		H28	173.0	23	0.94	3,808	2.0	23.0
		H27	156.3	22	0.96	3,301	2.4	22.9

《草丈》トッピング実施ほ場も含む
《有効茎》茎径0.5cm以上で、枯死茎は含まない
《GI》平均草丈×1mあたり茎数×平均茎径
《斑点病発病指数》0=発病なし

2=病斑が認められ、一部落葉、黄化
4=株の1/2以上が黄化、落葉



平成 29 年産農作物を振り返る

『病害虫の発生状況』

斑点病の発生は、平年より少なかった。

疫病は露地作型で、立茎開始直後から発生が見られた。

茎枯病の発生は平年より多かった。

灰色かび病は、ハウス、露地作型ともに発生したが、平成28年より少なかった。

アザミウマ類、カメムシ類は、7月下旬から発生と食害が目立ち始め、8月以降は平年よりも発生は多かった。

『平成30年産に向けて』

夏秋期の生育状況から、株養成が十分行われたと推察されるため、春は通常の収穫日数が見込める。しかし、病害虫により早期に茎葉が黄化、落葉した場合は、春芽の太さや品質を見ながら収穫期間を短縮する。

病害虫の発生予察に努め、防除を徹底する。

平成29年に発生が多かった茎枯病は、雨が多い場合は注意する。発生した場合は、立茎開始直後から防除を開始し、なるべく雨前に薬剤散布を行う。また、罹病茎葉は抜き取り、必ずほ場外へ搬出する。

7月下旬以降は、各種病害虫の発生する時期であり、特に露地慣行栽培

培では7月下旬から8月上旬頃には二次萌芽が始まるため、防除を必ず行う。

栽培年数が長いほ場が多くなり、土壌の養分バランスが悪くなっている。定期的に土壌診断を行い、養分の過不足を改善し、養分バランスの適正化を図る。

ハスカップ

『平成29年産について』

4月下旬～5月上旬は寒暖の差が激しかったが、3月が高温であったため、開花始めは5月7日前後と平年並みの開花であった。

5月上旬以降は風が強く、日照も少ないため、開花期間は長くなり、訪花昆虫も少なく、結実不良も見られた。

実の肥大期となる5月下旬以降は強風による落果やスレによる品質低下や灰色かび病の発生が見られた。

収穫は前年より1日遅く、6月20日より選果場での受入を開始した。収穫作業時に生産者個々でスレ果を選別した事で持込される品質は良好であったが、生育期間中の落果や選別で取り除いたスレ果は予想以上に多かった。

また、6月中旬には防風網の設置

が少なく、強風のため、前年とほぼ同じ収穫面積（10.2畧）であったがJA集荷量は前年比61.5%の15,757kgと、近年にない不作年であった。

生産組合未加入の組合員についても、収穫量は激減し、前年比65.8%の3,658kgの集荷量であった。

平成29年産の収穫量激減は開花期から収穫期までの風害が大きな要因と思われるため、平成30年は防風網の設置や着果不良の対応策としてミツバチの使用を生産組合と取り組み、収穫量の増加に繋げる。

園芸全般

『平成30年度にむけて』

近年は局所的な豪雨や異常な低温や高温など、気象変動が激しくなっている。

心土破碎によるほ場の透排水性改善や、明きよ（特に額縁明きよ）や暗きよの効果確認、緑肥や堆肥による有機物の補給など、基本的技術の励行が必要となる。品目によっては高畝栽培により作土層を確保し、湿害回避することも有効と思われる。

施設栽培では降雨が多くなると灰色かび病が多発しやすくなる。薬剤防除と併せてハウス側窓の換気を適

切に行い、温湿度コントロールを行う。

生育期間中は病害虫の発生予察に努め、適期防除を行う。また、散布水量を十分確保して防除し、薬剤の効果をよく確認して、ローテーション防除に努める。



【文責】

アスパラ・ハスカップ／農産園芸課
その他／空知農業改良普及センター

今回掲載していない作物や内容については、各担当課の職員にお尋ねください。

《水稻・小麦・大豆》

米 麦 課

TEL 6310526
《たまねぎ・アスパラ・ハスカップ》
農産園芸課

TEL 6310527



第69回

青年部通常総会

青年部は1月11日、第69回通常総会をJA3階大会議室で開催。部員36名が出席し、全8議案を原案通り可決した。役員改選では新部長に上美町の米内彰吾副部長が選ばれた。

平成30年度青年部役員体制

部長 米内 彰吾
 副部長 金子堅太郎(再・上美町)
 // 加藤 雅樹(再・北美町)
 // 寺崎涼太郎(新・上美町)
 委員長 好川 拓実(新・上美町開拓)
 // 菊地 翔(新・茶志内3)
 // 今田 雅之(新・北美町)
 監事 樋口 健作(再・上美町)
 // 長谷川敦史(新・沼の内)



新役員を代表して挨拶をする米内新部長(左)

女性部が

輝くために

女性部役員は1月12日、JA役職員との懇談会をJA3階中会議室で開催。女性部役員9名と岸定組合長らJA役職員8名が一堂に会し、今後の女性部活動について議論した。

今回の懇談会では『どうする？女性部』のテーマを設け、今後の女性部についての意見交換を行った。JA役職員と女性部の問題点を共有することで、改善に向けた新たなアイデアを生み出し、JA全体で問題解決に取り組む第一歩となった。



懇談会の様子

空知総合振興局へ

しめ飾り寄贈

12月19日、岩見沢市の空知総合振興局へ今回で10年目になる美唄産おぼろぎの稲わらを使った福亀のしめ飾り4本を寄贈した。

この日、振興局を訪ねた岸定組合長から佐々木誠也局長へ、来年の五穀豊穡そして全ての分野で良い年となるようお願いが込められたしめ飾りが手渡された。

しめ飾りは振興局1階ロビーなどに12月25日から新年の5日まで飾られた。



左から西川農業振興部長、岸組合長、佐々木振興局長、横野勲振興局産業振興部長

新米おぼろぎ

学校給食へ寄贈

11月28日、美唄市教育委員会へ学校給食として調理提供される、29年産JAオリジナルブランド米の雪蔵工房おぼろぎ230kgを贈った。

岸定組合長は「おぼろぎは美唄の土地と生産者が育て上げたお米。是非、子どもたちに味わってほしい」と星野恒徳教育長に手渡した。

贈ったおぼろぎは12月7日と8日の2日間、市内の小中学校などで主食として約3,000食に使われた。



新米おぼろぎを手にする岸組合長(左)と星野教育長(右)

次の世代に

繋げていきたい

美唄市農協花き生産組合は11月22日、設立30周年の記念式典並びに祝賀会をJA本所3階大会議室で行い組合員、関係者ら61人が出席した。

式辞で土屋信博組合長は「これからは、次の時代に繋がる後継者を作る作業を行ない、来る40周年を迎えたい」と挨拶をした。

式典では同生産組合の功労者として平良均元組合長（開発）と渡辺勲前組合長（中村）へ感謝状と記念品を贈りその功績を讃えた。



式典の参加者全員で記念撮影

旬の味覚を

めしあがれ

女性部は12月13日、コアビバイ内の市民ふれあいサロンにおいて、毎年恒例の収穫祭おぼろづき2017を開催、約200名の市民が会場を訪れた。

吹雪という悪天候のこの日、例年に比べ会場に足を運ぶ市民は少なかったが、同サロンは大勢の人で溢れ、ビンゴゲームや抽選会を楽しんだ。また、新米おぼろづきのおにぎりや部員手作りの豚汁や漬物を市民に振る舞い、収穫の喜びを分かち合った。



女性部員が作ったおにぎりや豚汁を味わう市民

夢をかたちに

入試応援

12月末から金融課では昨年に引き続き、貯金窓口で入試願書用の収入証紙を購入した受験生に、応援の気持ちを込めた『受験ガンバレグッズ』を贈り、健闘を祈った。

金融課職員らが作った贈り物の中には、ノートやクリアファイル、合格祈願のお菓子を詰めた。さらに通学時の事故に備えた賠償責任保険のパンフレットも同封。3月には入学申込用の収入証紙購入者へ入学おめでとうグッズの配布を予定している。



願書用の収入証紙を購入した美唄中学校3年生の佐々木柊人さん

決算監査の質的

向上を目指して

JA空知管内監事協議会は1月11日と12日の2日間、札幌市にある北農健保会館で、空知管内13JAの監事と内部監査部門長らを集めた空知管内JA冬期監事研修会を開催。JAびばいからは監事3名と監査室職員2名が出席した。

研修会では決算監査事務手続きを中心に学んだ。そのほか平成31年度から義務化される公認会計士監査の前に、内部統制の重要性を再確認した。



研修を受けている様子

農業者年金基金からのお知らせ

公的年金ならではの税制上の優遇措置があります

- 支払った保険料は、全額（年額12万円～80万4千円）が社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税の節税（支払った保険料の15～30%程度）につながります。（民間の個人年金の場合は、控除額の上限は5万円（平成24年1月1日以降の保険契約については4万円）です）
- 保険料などの年金資産の運用益は非課税です。
- 将来受け取る農業者年金は、公的年金等控除の対象となり、65歳以上の方であれば、公的年金等の合計額が120万円までは全額非課税となります。

保険料支払いによる節税効果の試算

所得税・住民税

課税対象所得	税率	保険料月額4万円 (年額48万円)の場合	保険料月額6万7千円 (年額80万4千円)の場合
195万円以下	15.1%	7万2千円	12万1千円
195万円超 330万円以下	20.2%	9万7千円	16万2千円
330万円超 695万円以下	30.4%	14万7千円	24万5千円

※保険料支払分で控除される所得税+復興特別所得税+個人住民税の額の試算です。
保険料支払後も保険料支払前と適用される税率に変更がないものとして試算しています。

農業者年金の特徴

入口から出口まで
税制上の優遇措置
があります！



お問い合わせはコチラ  JAびばい 金融課 融資係（担当：安村・池田）TEL63-2163

こよみ・行事

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

- 8日 ○女性部生活作品展
- 11日 ○建国記念日
- 12日 ○振替休日
- 13日 ○信用事業リスク管理強化委員会
- 15日 ○企画会議 ○常務委員会
- 16日 ○監事会 ○定例理事会
○コンプライアンス委員会
- 17日 ○臨時企画会議
- 19日 ○常務委員会
- 21日 ○臨時理事会
- 22日 ○女性部通常総会
- 26日 ○全国監査機構期末監査
(3月2日まで)

平成29年度 JAグループ北海道「ICT導入応援事業」の事業申請等について

●事業内容

GPSガイダンス装置・自動操舵装置を同時に取得する者に対して、JAを経由してGPSガイダンス装置・自動操舵装置の導入費用助成を行う

●助成内容

《助成対象機械》 ①GPSガイダンス装置 ②自動操舵装置

※①②を同時に取得する場合のみ対象

《対象者》 農業者、農業法人等

《助成額》 20万円以内（1経営体あたり1回限り）

《H29年度事業額》 5千万円

●事業実施期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの1年間

※上記期間に助成対象機械を購入した農業経営体が対象

●募集期間

平成30年4月1日より平成30年4月30日までの1ヶ月間

★対象機械を購入された方は事前に下記期日までにご連絡下さい★

期 日：平成30年3月31日 ※戸別に対応させていただきます。

事業申請は平成30年4月以降になります。

 JAびばい 企画相談課（担当：森）TEL63-2165

JA北海道 中央会

【食と農のイベントを初開催】

「北海道アグリ・フードプロジェクト」が11月に札幌市で開催され、JAグループ北海道も企画主体となりブース出展やステージ企画を実施しました。

道内各地の農畜産物や加工品の試食・販売をはじめICT関連最新技術の紹介まで全道の出展者が集まり幅広いブースを展開。農業関係者や消費者の皆さん等、約8,000人もの来場者が訪れ、農業の最先端技術に触れる場や、北海道農業の魅力発信の場としての大きな役割を果たすイベントとなりました。



↑会場には畑も出現！



ホクレン

LINE@等を活用した生産者向け情報発信サービス「ホクレンインフォメーション」では、生産者の皆様にに向けたイベントや新商品の情報、生産資材（飼料や農薬など）価格、スマート農業情報などの営農情報をタイムリーに発信しております。今後とも生産者の皆様に役立つ情報を発信して参りますので、ぜひ、お手持ちのスマートフォンやパソコンからご登録ください。

(<http://hokuren-news.jp/>)



登録はコチラから→



JA北海道信連

11月に農業経営者支援の一環として、今年で7回目となる「農業経営フォーラム」を開催しました。

（株）もち米の里ふうれん特産館の堀江代表取締役氏に『創業からこれまでのあゆみ』を、NPO法人失敗学会の飯野副会長に失敗を成功のもととする『失敗学』をテーマに講演頂きました。参加者からは「大変勉強になった」「失敗から学ぶことの大切さを教わった」など好評を頂きました。



JA北海道厚生連

JA家庭介護教室では、高齢化の進展に伴いさらに増加することが見込まれている認知症高齢者への支援として「認知症サポーター100万人キャラバン運動」を展開し、認知症を正しく理解し支援する「認知症サポーター」の養成や安心で安全な家庭介護実践のための正しい技術や知識が習得できる講義・実技演習を実施しました。安心して暮らせる地域社会の実現に向けた取り組みを継続して参ります。



JA共済連北海道

11月22日・23日に開催された「北海道アグリ・フードプロジェクト」で、オリジナルキャラクター『ひとのわぐま』の的あてゲームを実施し、多くの方に楽しんでいただきました。地域貢献活動の紹介やキャンペーンチラシを景品と共に配布し、JA共済連北海道の活動を知っていただく機会となりました。今後もこのようなイベントを通し、JA共済の周知に取り組んでまいります。



理事会だより

12月15日

⑯ その他

…全議案承認

《報告》

- ① 平成29年11月末現在、業務財務報告
- ② 常務委員会報告
- ③ 農家経済改善対策委員会報告
- ④ JAびばい農場活用推進委員会報告
- ⑤ 平成29年度農地耕作条件改善事業実施状況報告
- ⑥ 平成28年度小豆被害最終報告
- ⑦ 平成29年度決算推定報告（11月末）
- ⑧ その他

《議案》

- ① 平成29年度第3・四半期末監査意見報告
- ② 平成29年度自己査定に係る不動産評価基準の設定について
- ③ 理事に対する資金の貸付について
- ④ 特定組合員に対する資金の貸付について
- ⑤ 平成28年度主食用米共計追加精算について
- ⑥ 平成28年度加工用米の最終精算について
- ⑦ 平成28年度新規需要米の共計最終精算について
- ⑧ 新たな米需要拡大・需給安定対策に係る抛出金について
- ⑨ 平成29年度新規需要米の概算精算について
- ⑩ 平成29年度特定米穀の精算について
- ⑪ 平成29年度工房調製米穀の精算および平成28年度工房調製米穀の最終精算について
- ⑫ 平成28年度小豆の最終精算について
- ⑬ 平成28年度国内麦流通円滑化特別対策事業交付金の支払および規格外小麦の最終精算について
- ⑭ 平成28年度大豆の最終精算について
- ⑮ 年末手当の支給について

臨時理事会

12月22日

《報告》

- ① 農家経済改善対策委員会報告
- ② 固定資産取得状況報告の一部修正について
- ③ 特定組合員のクミカン収支見込み報告
- ④ その他

《議案》

- ① 平成30年度内部監査計画について
- ② 法人組合員の資格変更について
- ③ 特定組合員の農地取得に向けた賃借権の設定について
- ④ 平成29年度小豆の追加概算金について
- ⑤ 平成29年度なたねの精算について
- ⑥ その他

…全議案承認

《その他報告事項》

- ① 平成30年度12月作付意向調査報告
- ② 平成29年度大豆集荷実績報告
- ③ 生産施設操業状況報告
- ④ その他



東小学校の5年生が9月に収穫した米と園場を提供した上美町の斎藤実さんが用意した野菜を調理。出来上がった炊きたてご飯とご汁を試食した。(11/21)



女性部園芸部会が同部会の深澤育子さんを講師にフラワーアレンジメント講座を開催。12名の部会員が参加し、持ち寄った器に花を生けて楽しんだ。(11/30)



子どものいる風景フォトコンテストの授賞式が子育て支援センターはみんぐで開催され、岸定組合長が入賞者へ新米おぼろづきを贈呈した。(12/2)



女性部加工部会がJA2階研修室で味噌の仕込みを行い、部会員14名が交代で作業した。この3日間で9樽270kgを仕込んだ。(11/30~12/2)



女性部フレッシュミズ部会が冬季講習会を開催し、部会員7名が参加した。講師にシルバー部会の福田ひろみさんを招き、しめ飾りづくりを初体験した。(12/4)



女性部役員がJAへ、部員が豊作への願いを込め手作りした亀のしめ飾りを寄贈し、岸定組合長へ手渡した。また美唄市にも同様のしめ飾りを寄贈した。(12/13)



合格おめでとう！
これからの活躍を
期待しています。

農協資格認定試験合格者
《特級》
企画相談課 鳥井 達也

昭和56年5月1日入協
平成30年1月31日退職
長い間お疲れさまでした



退職者
宮農販売部 農業資材課
星野 哲哉

★キャンペーン金利★ ※保証料込

■北海道農業信用基金協会保証の場合
※准組合員へご加入いただきます

変動金利 通常 4.00% ▼▼▼▼
年 2.20%
固定金利 通常 5.25% ▼▼▼▼
年 2.40%

■信販会社保証の場合

変動金利 通常 4.60% ▼▼▼▼
年 2.80%
固定金利 通常 5.85% ▼▼▼▼
年 3.00%

教育ローン
キャンペーン

平成30年4月27日(金)まで

お問い合わせ先
金融課

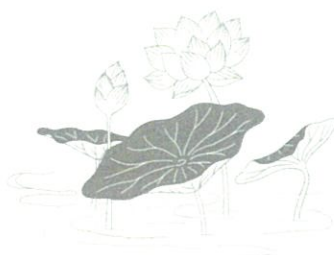
JAびばい
TEL 63-2163
FAX 63-3977

J A の 概 況

<12月末>

○皆さんの貯金	26, 081, 301千円
○皆さんへの貸出金	4, 355, 377千円
○皆さんの出資金	717, 630千円
○組合員数	(正) 784人 (准) 3, 958人 (計) 4, 742人

美唄市農協生活改善
運動推進協議会



山形
▼太田 廣志 さん

(八十一歳)
十二月七日死去

お悔やみ申しあげます

役員台



右から岸組合長、菅野さん、涌井さん、岡部さん

**新成人おめでとうございます!!
立派な社会人目指して頑張ってくださいね!!**

挨拶に立った岡部くんは「社会人としての自覚をしっかりと持ち、1日でも早く、期待に応えられるJA職員を目指して努力したい」と力強く抱負を語ってくれました。

1月5日、JAびばい役職員合同の新年会が3階大会議室で開催され、役職員96名が参加し、一年の始まりをお祝いしました。
今年には農産園芸課の岡部由暉（おかべゆうき）さんと農業資材課の涌井祐輝（わくいゆうき）さん、金融課の菅野杏美（すがのあみ）さんが新成人となり、大人としての第一歩を歩み出しました。

編集後記

写真撮影に協力してくれたのは
元村の笹原俊明さん
取材に訪れた1月中旬は
芽出し作業の真っ只中
収穫作業は4月頃まで続きます



椎茸芽出し作業

美唄市きのこ生産出荷対策協議会の会員は2名で、菌床ブロック栽培により年間9トンの椎茸を丸果札幌青果に出荷しています。

品質が良く、平成25年には北海道きのこ品評会で最優秀賞を受賞しています。

収穫時期が9月下旬～4月のため、他作物と競合せず栽培できます。

